

書写に関する幼小接続の指導支援

——就学前における書道教室2015の実践を中心に——

森 哲 之*

Instructional Support for Connecting Handwriting Skills in Kindergarten and
Elementary School: “Calligraphy Classroom 2015” in Preschool Education

Tetsushi MORI*

はじめに

幼児の書写に関する状況を見渡してみると、家庭や幼保の現場で筆記具を使用し、絵画等とともに文字を書き始めている現状がある。就学前の書写技能に差が認められ、小学校国語科書写学習の導入時においては、児童個々の書写状況の正確な把握とともに、個に応じた適切な指導が必要である。また、幼児期から学童期には書写力に大きな差が生じ、青年期以降に及んで課題が残る状況もある。まずは、幼児や児童への書写学習の導入段階や基礎基本に係る的確な指導支援が望まれよう。

小学校書写の学習の導入では、文字を書く姿勢や筆記具の持ち方の指導がある。しかしながら、就学前に既に幼児が筆記具で絵画や文字を書く状況において、現状では幼児期に適切な持ち方の指導がなされる仕組みがないため、それぞれに課題のある持ち方が生じてしまうのである。また、小学校入学時に児童が鉛筆で文字のある程度書ける状況においては、筆記具の持ち方の課題に気付きにくく、問題点が見過ごされやすい。いくらか文字を書ける児童が、持ち方

や書き方に個別の癖が付いている場合、その改善は容易ではない。一方、全体に概ね文字を書いている状態があると、対照的に幼児期に書写機会があまりなく最も丁寧な指導を要する児童については、持ち方や基礎基本の指導が行き届きにくいことも考えられ、一斉授業では解決されにくい。

このように、就学前後に書写に関する課題が見られる中、広島文教女子大学附属幼稚園から広島文教女子大学に、就学前の年長児を対象とする書写書道に関する指導等の要請があった。2014年度より実施し、2年目となる2015年度も継続実施してきた。そこで、筆記具の持ち方や姿勢をはじめ、文字を書くことに関する指導支援の実践を通して、幼小接続における書写学習導入の方法を検討した。

本稿では、広島文教女子大学附属幼稚園における書写書道に関する指導支援の実践について述べていく。附属幼稚園における「書道教室2015」を通して、幼児の書写や書の表現等の指導支援のあり方を探り、幼稚園児のための書写書道教育活動プログラムの開発を目的とする。

* 本学准教授

1. 幼稚園における書写書道に関する支援の背景

広島文教女子大学附属幼稚園の要請を受け、年長児を対象とした書写書道に関する学びについて、筆者及び本学初等教育学科書写書道専修学生が指導に当たった。園の意向を汲み、年長児に対する書写や書道の豊かな体験を加味し、年長児向けの教室を企画した。園児や保護者にも分かりやすく、書写の学習内容を含む「書道教室」の開催とした。

園の要請の背景を振り返っておくと、学区の小学校との連携において書写状況に様々な課題が浮かび上がっている。幼稚園と小学校との接続に関して、入学時点における児童の鉛筆の持ち方に課題が認められる。それぞれに一度定着した持ち方を正しい持ち方に変えるところに困難があるため、特に重点化した。

また、事前に附属幼稚園の視察や打ち合わせを行った。園児の日頃の書写状況については、選択により、色鉛筆等を使用し、図形や絵画、文字を日常的に書く状況がある。なお、持ち方については園児それぞれの状況が見られた。

このようなことから、書写の導入に関する姿勢や筆記具の持ち方の指導とともに、幼稚園児にとって豊かな体験となるよう書道の特色を生かした活動として組み立てていった。

2. 附属幼稚園書道教室2015の概要と特色

附属幼稚園の課外教室ボランティアとして、園内の教室において書道教室を設定した。指導は、筆者及び本学初等教育学科書写書道専修学生によるティーム・ティーチングである。園の教員にも協力を得た。対象は、附属幼稚園年長児で、42名が参加した。

基本的なコンセプトは、文字を書く姿勢と

もに正しい筆記具の持ち方を身につけること、遊びを通して文字に触れること、毛筆等に親しみ書道を楽しむこととした。

園の放課後設定時間の内、水曜15:00~16:00の1時間の中で、大学ともに可能な日程を調整し、5月から10月に6回のプログラムで開催した。各回の学習内容は基本コンセプトを元に、年長児の状況を把握しながら柔軟に指導を行っていた。

主な用具用材については、筆ペン、三角鉛筆、小さな輪ゴム（#8規格）、鉛筆の持ち方の補助具類、トレーシングペーパー、色紙（いろがみ）、色和紙、水書板、毛筆等を用意した。

また、年長児の筆記具の持ち方が様々なことから、繰り返し多様な手法により指導に当たるものとした。筆者及び学生との関わりによって、園児が楽しみながら学べるよう考慮した。なお、書写書道専修における教育研究活動、書道ワークショップ等の実践を応用し、その蓄積してきたノウハウを活用した。そして、文字を書くこと、毛筆や鉛筆等の筆記具を使用することが楽しく面白いと思えるような機会とした。

3. 継続的指導内容と取り組み

各回に共通し繰り返し行った指導として、まずは、文字を書く姿勢の指導が挙げられる。姿勢については、背中中はピン、足はビタの姿勢を確認し、基本的にはよい姿勢を保つことを褒めた。身体健康や健全な発達のためにも、背中を丸めず、正しい姿勢を保つことを推奨した。また、頭部が影になるような前屈みの姿勢を避け、視力低下に繋がらないよう配慮した。各回において継続して、開始時ほか適時声掛けを行った。

次に、筆記具の持ち方である。初めに筆ペンを使用し試みることにした。それぞれの持ち方

を正していくことよりも、適した持ち方を実感させることを優先させた。筆ペンと鉛筆との双方の持ち方の共通点を関連づけ、持ち方の基本を分かりやすく伝えた。軸を立て、親指と人差し指で軸の適切な位置を掴み、中指を添え安定させることで無理なく持つことを意識させた。特に、毛筆や鉛筆の持ち方における軸の傾斜、それに伴う指先の力みや強い握りを避けることを意図した。毛筆や筆ペンの使用においては、穂先が柔軟なため、無理に力を加えすぎない利点がある。なお、年長児には毛筆及び墨液の取り扱いが難しいことから、代用として筆ペンにより試みた。小筆に近い感触により、負荷の掛からない持ち方のコツを掴ませていった。その際、なぞり書きにより、穂先を意識させ一点一画を丁寧に捉えていくことをねらいとした。

題材には、ひらがなをはじめ、古代文字、名筆等に触れさせた。昔の文字としては、甲骨文字や青銅器銘である金文のユニークな造形の象形文字等を、トレーシングペーパーになぞり書きすることによって、文字や書の面白さを自ずと味わわせた。

年長児との関わりについては、小学校教育実習等の経験のある初等教育学科学生の提案なども取り入れながら、幼小接続を意識した企画とした。

4. 附属幼稚園書道教室2015の実践

広島文教女子大学附属幼稚園書道教室2015における指導支援について、各回のテーマ、開催日、主な取り組み等について述べる。

- (1) 第1回「姿勢と持ち方 筆ペンを楽しもう
動物の昔の文字」(5.20)(図1、2)

文字を書く姿勢、筆ペンの使い方や持ち方について指導した。筆ペンに慣れ親しめるよう、

様々な直線曲線等のワークシートを使用した。トレーシングペーパーを上においてなぞり書きを行い、筆ペンの感触を確かめさせた。また、古代文字の教材も同様に活用し、書き味いながら、色紙へ清書した。

挨拶にはじまり、よい姿勢を確認した。姿勢については、背中はピン、足はペタを合言葉に意識させた。筆記具の持ち方については、筆ペンを使用しながら学ぶ試みとし、年長児個々の書写状況に関する現状把握を行った。

まずは、筆ペンの穂先の柔らかな感触を楽しんでもらった。筆ペンの軸を立て、親指と人差し指で柔かく掴み、中指をそっと添えさせた。液墨が出るように補助し、用意したワークシートで様々な直線や曲線をなぞることによって慣れさせていった。軸を真っ直ぐに立てた状態を保ち、安定した線でなぞり書きをさせながら、押さえ過ぎる傾向があったため、細くてもよいこととし、持ち方の状況を確認し補助した。なお、筆ペンの軸の状態は姿勢のピンのイメージと重ね合わせた。

指は正しい位置で軸を適度に支え、穂先を意識し丁寧に書いてみることにした。全般に、軸を立て、三指の位置や適度な握りを知り、筆ペンの柔らかな穂先の感触や書き心地を楽しむことができていた。力まず無理のない持ち方を優先した。

次に、甲骨文の「馬」、金文の「魚」「犬」を題材に、造形のユニークな昔の文字に親しみながら、なぞり書きを行った。古代文字に自ずと触れさせ、一筆一筆形作られていく造形を楽しんでもらった。後半には作品へのなまえ書きを推奨した。

- (2) 第2回「筆ペンを楽しもう 良寛さんのいろは 一二三 昔の文字」(6.24) (図3～5)

姿勢、筆ペンの持ち方を確認し、線の試し書きを行った。次に、良寛書「いろは」「一二三」、昔の文字として、金文「魚」「回」「雷」等をトレーシングペーパーになぞり書きし、色紙に清書させた。筆先を押さえつけすぎないように細い線で書くよう促し、軸を立てて書く感覚を掴むようにした。

青銅器の図象をはじめとして、やや複雑な字形の金文「魚」「回」「雷」を題材に、造形美豊かな昔の文字に触れさせた。筆ペンでトレーシングペーパーに古代文字をなぞり書くことを楽しみながら、筆記具の持ち方の意識を図った。

後半には色紙に清書し、作品へのなまえ書きを試させたが、筆ペンでの持ち方が徐々に安定してきた。

- (3) 第3回「筆ペンと鉛筆 楽 なまえのなぞり書き」(7.8) (図6～8)

昔の文字の続きで、同じ太さの線の持続をねらいとし、篆書の「楽」を題材に、なぞり書きした。中盤からは、用意した各自のひらがな名前のお手本を活用し、トレーシングペーパーを上において筆ペンで写し、名前書きの練習を行っていった。

まずは、左右対称のユニークな造形である篆書の「楽」の教材を配り、トレーシングペーパーを使用し筆ペンでなぞり書きを行った。昔の文字を楽しみながらなぞり書き、持ち方の意識が高められた。その後、写さずに見て書くことを試みさせ、色紙を選び清書を行い、自宅に飾れる作品を完成させた。

次に、鉛筆による学びである。これまでの筆ペンでの書き方を生かし、同様に鉛筆の持ち方

を確認しながら、様々な線のなぞり書きによる試し書きを行った。三角鉛筆を使用し、軸を立て、親指、人差し指、中指の三指の位置を意識させた。

その後、園児の名前の手本を用い、トレーシングペーパーになぞり書きをさせながら、持ち方について支援した。予め鉛筆で手書きした名前のひらがな手本を参加年長児分用意しておいた。それには、筆順を書き添えた。

また、筆ペンの持ち方と鉛筆の持ち方との共通するところを説明し、同時に小さな輪ゴムを配った。小さな輪ゴムを人差し指の第一・第二関節に鉛筆とともに付けることによって、持ち方の確認が容易に理解できる。筆ペンから鉛筆の持ち方に展開し、筆ペンの感触に近い持ち方を捉えさせた。そして、マス目のある用紙を使ってなぞり書きし、清書させた。速書きになる傾向があったが、机間指導の中で、持ち方支援とともに、一点一画、一文字ずつ正しく丁寧に名前を書いてみるよう指導した。

- (4) 第4回「ぐるぐる渦巻ききの練習 ありがとう だいすき なまえ」(9.30) (図9、10)

ウォーミングアップに、ぐるぐる渦巻ききの練習を行い、「ありがとう」「だいすき」の文字を練習した。

ぐるぐる渦巻ききの練習では、ひらがなの書き方の特徴と共通した動きとなるよう、時計回りで小から大の動きとした。合わせて、軸を立て、さらに持ち方の安定感が増すように意図した。

筆ペンによるぐるぐる渦巻ききの練習では、同じ太さの線で等間隔に持続して書くことを試みた。並行して、小筆と水書板も用い、水書板に練習するグループと筆ペンで練習するグループに分け、交互に進行していった。最後に鉛筆で

書いてみることによって、毛筆から鉛筆への学びの関連付けを試みた。

次に、鉛筆の正しい持ち方の確認、「ありがとう」のひらがなの練習を行った。空書きでひらがなの筆順、文字の確認を行った。持ち方では、木製の小さな球を掌に軽く持たせ、掌のゆったりとした空き具合を確認させた。鉛筆の軸の位置が適度に起き気味になり、無理なく握る感触に効果が確認できた。

幼児の状況を見つつ、持ち方補助具類も適時使わせてみた。軸の位置が下がっていたり、強く握りしめたりする年長児には、効果が見られた。

三角鉛筆を使用して、「ありがとう」「だいすき」、各自の名前を、手本を元にしてトレーシングペーパーになぞり書きを行った。最後に清書として色紙に書きまとめ、お家の方に手渡してみることを提案した。

後半では、筆ペンや鉛筆での名前の書き写しに繋げた。筆、筆ペン、鉛筆の持ち方との共通点を関連付け、持ち方の補助具も使用しながら、持ち方についての確認を行った。また、色紙での清書を行った。

- (5) 第5回「円　ぐるぐる渦巻き　水書板
　　おとうさん　おかあさん」(10.14) (図11、
　　12)

円とぐるぐる渦巻きを安定した線で書けるようにその参考教材を準備した。前回に引き続き、水書板に小筆で書く体験も取り入れた。また、姿勢や鉛筆の持ち方の確認とともに、筆ペンと鉛筆での学びとした。手本を元に、「おとうさん」「おかあさん」、名前を書いた。毛筆の学習を硬筆に生かすことを、筆ペンと鉛筆の使用によって関連付けた。小さな輪ゴム、木製の球、「もちかたくん」「ユビックス」等の補助具を付

けた鉛筆等を選択させて使用し、持ち方を様々な角度から検証した。トレーシングペーパーでのなぞり書き練習を経て、色紙での清書をまとめとした。

- (6) 第6回「筆体操　ありがとうの手紙　ありがとうの旗」(10.28) (図13～16)

最終回として、姿勢と持ち方の振り返りを行い、これまでの学びの成果を発揮できるように、色和紙に手紙をイメージした作品を制作した。また、「ありがとう」をテーマとして、大きな紙に共同で文字を書く大きな旗作りの活動を行い、自由に書ける場を設定した。

導入として、筆体操を取り入れた。曲に合わせて、筆を持ち、体を動かしながら筆運びのウォーミングアップとした。横画、縦画、円運動ほかを盛り込み、学生が振りをつけて示し導いた。筆体操では今まで練習した文字を体全体で書けるよう意図した。笑顔で楽しみながら筆体操を行っていた。

次に、これまでに練習してきた自分の名前、「おとうさん」「おかあさん」「ありがとう」「だいすき」の文字を活かして手紙を書いた。

筆ペン・鉛筆を使用し、用意した参考作品をなぞり書きし、なまえを添えるようにした。トレーシングペーパー、色和紙等を段階的に使用し、清書を行った。感謝の手紙として、お家の人に渡したり、飾ってもらったりすることを促した。姿勢、持ち方をはじめとして、小学校での学びへの接続にスムーズに繋がるものと考えている。

最後に、大きな紙には「ありがとう」のテーマで、これまでの学びを自由に書けるようにした。思い思いにこれまでの学びの成果を発揮していた。

おわりに

広島文教女子大学附属幼稚園書道教室2015では、年長児に実際に関わることによって、就学前の書写状況が確認でき、実践を通して課題解決を試みることができた。就学前に文字を教えるという観点ではなく、あくまで文字を書く姿勢や筆記具の持ち方の支援を適切に行うことを重視し、楽しく関わりながら自ずと身に付けていけるよう考慮した。基礎基本については、一点一画を丁寧に捉えられるよう、多様な教材を提示し、なぞり書きを繰り返した。なお、筆ペンは、毛筆への導入としても有効な点があり、無理なく鉛筆の持ち方にも繋げられる。

幼稚園から小学校への接続において、文字を書く姿勢や筆記具の持ち方は、幼児教育の段階でフォローしたい内容である。小学校国語科書写の学習への接続に課題が認められる状況からも、幼児期の筆記具の使い始めに適切な指導支援が必要と言える。

毛筆や鉛筆の持ち方は、軸をやや立て、強く握りすぎないことが肝要である。正しい持ち方は、長い目では腱鞘炎等のリスクを抑えられる

効果もあり、延いては学習効果を高められる。就学前に関わる保育者や保護者等も、筆記具の持ち方について正しく理解しておくことが望まれる。箸の持ち方については、躰等の一環として共通した認識があり、食生活の中で指導がなされる。箸の合理的な使い方と同様に、筆記具の持ち方についても保育者や保護者との日常生活での関わりの中で育んでいくことも考えられる。

また、書道を生かした豊かな体験活動としては、古代文字や名筆に触れさせ、鑑賞するとともに、なぞりながら学び味わうものとした。また、毛筆に親しんでもらい水書板なども活用した。書道体験とともに、姿勢や筆記具の持ち方を関連付けた。筆記具の持ち方の定着には継続性を要する。本取り組みでは実験的な手法を試みたが、文字を書く姿勢や筆記具の持ち方に関する一定の改善が図られたものとする。

参考文献

全国大学書写書道教育学会編『明解 書写教育』増補
新訂版、萱原書房、2013

資料：広島文教女子大学附属幼稚園 書道教室2015



図1 はじめての筆ペン トレーシングペーパーになぞり書き



図2 筆ペンによる「魚」「馬」「犬」の古代文字



図3 筆ペンの持ち方と正しい姿勢の確認



図4 「魚」「回」「雷」等の古代文字を筆ペンでなぞり書き



図5 筆ペンによる「魚」「回」「雷」の古代文字



図6 篆書の「楽」を筆ペンでなぞり書き その後色紙に清書



図7 筆ペンの持ち方 なまえのなぞり書き



図8 輪ゴムを活用した鉛筆の持ち方 なまえのなぞり書き



図9 渦巻きの水書き体験



図13 筆体操でウォーミングアップ



図10 筆ペンや鉛筆で「ありがとう」「だいすき」



図14 ありがとうの手紙 なぞり書き後に色和紙に清書



図11 ぐるぐる渦巻き 円 なぞり書き後に水書板で練習



図15 練習の成果を大きな旗に寄せ書き



図12 筆ペンや鉛筆で「おとうさん」「おかあさん」



図16 ありがとうの大きな旗 みんなで寄せ書き